別記様式）

令和６年度　府立菟道高等学校　学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（　計画段階　・　実施段階　）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
変化し続ける時代の中で、なりたい自分を見据え、主体的に学び、進路を切り拓き、将来社会に貢献できる生徒を育てる。 １）集団の中で切磋琢磨し人格の形成を図る。 ２）個人の尊厳を重んじ、知・徳・体の調和のとれた発達を図る。 ３）地域に根ざした一層豊かな学校文化、「菟道文化」の創造を図る。	○　落ち着いた学習環境を維持し、あらゆる教育活動において粘り強い指導を行った。学校評価アンケートでは教育活動について一定の評価が得られた。 ○　教員が一人一台タブレット端末を持つことにより、ICT を積極的に活用した授業を展開することで、BYOD に対応することができた。授業改善に向けた取組は継続する必要がある。 ○　特色化事業や UJI 学においては、生徒は真摯に、かつ意欲的に取り組むことができた。今後も学年、担当分掌、教科等で取り組み時間の確保や担当者間での調整が必要である。また、総合的な探究の時間のさらなる工夫と運用が課題である。 ○　外部機関とも連携しながら心身に悩みを抱える生徒や特別支援を要する生徒への指導を行った。今後も全教職員の知識と技能のスキルアップを目指す。 ○　希望進路実現に向けて最後まで粘り強く丁寧な指導を続けた。納得のいく進路実現のため全校体制で３月まで指導していく組織作りが必要である。また、定期的に模試分析会等を開催し、多角的に生徒の学力分析に努めなければならない。 ○　地震による火災を想定した避難訓練を実施した。防災意識を高めるとともに、非常時の対応方法について共通認識を得た。 ○　広報活動では、学校公開・説明会・ＨＰ等の中で本校の魅力発信のために、在籍生徒の教育活動や学校生活の様子を効果的に発信できた。今後は地域への認知度をさらに上げる工夫をしていくことが課題である。 ○　新型コロナウイルス感染症の５類移行に伴い、従前の形で学校行事や平素の教育活動を行うことができ、生徒の笑顔が増えたと感じる。	○　本校の校訓である「さとく」「さやかに」「たくましく」　をすべての教育活動の中に具現化し、「知」「徳」「体」　のバランスがとれた生徒の育成を図る。 ○　質の高い授業をはじめとするすべての教育活動を通して、組織的で計画性のある指導を行い、学力向上と進路希望の実現を目指す。 ○　生徒が安心して高校生活が送れるように落ち着いた、潤いのある学習環境を維持する。また、種々の課題を抱える生徒に対して手厚い指導を行うとともに、安心して学校生活が送れるような指導体制を整える。 ○　タブレット端末やオンライン授業を活用した教育活動が必要な場面に応じてさらに進むよう努める。 ○　広報活動において、卒業生や在校生が直接中学生や保護者に語る機会を設け、菟道高校生の良さをアピールし生徒募集につなげる。 ○　特色化事業で得た知見を基に取り組んできた「総合的な探究の時間」の活動内容のさらなる充実を図る。 ○　学校の教育力向上に向け、スクール・ミッション、スクール・ポリシーを基に、中長期的及び短期的なビジョンを構築していく。

評価領域 （分掌領域）	重　点　目　標	具　体　的　方　策	評　価 項目	評　価 総合	成果と課題
教務部	・現行学習指導要領に基づいた教育課程を充実させるための研究・実践を行う。	・ＩＣＴを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」につながる方策について研究・実践を行う。	B	B	・教務部としての研究・実践はまだ　実施できていないが、各授業で実践している。 ・次年度に向けて今後、検証・改善を図りたい。 ・１・２年とも担当教員を中心に計画的に進めている。
		・観点別学習状況の評価方法について検証・改善を図る。	C		
		・総合的な探究の時間において「主体的・対話的で深い学び」の充実を図る。	B		
生徒指導部	・自他の存在を大切にする心の育成を図る。	・学校行事、部活動を通じて、自己肯定感の醸成を図るとともに、他人や社会を尊重する心の教育を行う。 ・学年部、他分掌と連携し、携帯電話・スマートフォンの扱いや、タブレット使用に係る規程の意義を理解させ、落ち着いて学習に取り組り組むことに加え、有効的な使用を促す。 ・いじめアンケートを活用して、いじめの早期発見と対応を行い、いじめのない生徒集団の形成を目指す。	A	B	・菟道祭では、生徒が仲間と協力し、役割毎の責任を全うして取り組むことができた。 ・スマートフォン、タブレットの取り扱いについては、前年度よりも使用に係る制限を緩和した規定としたが、大きな問題は起きていない。 ・いじめ事象が発生したが、早期かつ柔軟に対応することができた。
	・社会の一員としての自覚と必要な技能の育成を図る。	・校門指導、身だしなみ指導を通じて、基本的生活習慣の確立を図るとともに、生徒が自発的に挨拶が行える雰囲気を校内に醸成する。また、講演などを通じて SNS に係る諸問題を理解させるとともに、学年部や教科と連携して適切に利用する指導を行う。 ・成人年齢引き下げに伴う責任や問題について理解させる。	B		・遅刻や身だしなみが整っていない生徒が複数いた。 ・１年生については６月に京都府消費生活安全センター様より、SNS 講演会、２年生については 11 月に成人年齢引き下げに伴う責任や問題についての講演会を実施した。事後アンケートからも内容について多くの生徒が理解できたことが窺える。
	・生徒主体の学校づくりへの取り組みを推進する。	・学校行事、生徒会活動、部活動、ボランティア活動等の中で生徒が主体的に取り組める活動の場を提供する。 ・学期に１回、部活動代表者会議を開き、菟道高校や部の代表としての責任と自覚を持たせ、部長を中心とした主体的に活動する集団を形成する。 ・生徒会本部と連携し、校則の見直しや行事内容の調整を図る。	B		・菟道祭では、教員のサポートが必要ではあったが、生徒が主体的に協力して、取り組むことができた。 ・生徒会の活動によって、菟道祭企画（ストリートフェスタ）を実施することができた。 ・体育祭では立案から運営まで、生徒会本部が体育委員会と連携し、取り組むことができた。
	・安心・安全な学校生活への取り組みを推進する。	・交通安全指導を通じて、生徒の安全に対する意識を高めるとともに、交通ルールの周知を図ることで、登下校時の生徒の安全を守る。 ・ロッカーの利用を推進し、生徒の防犯意識を高める。	C		自転車の指導について、二人乗りやイヤホンを着けたままの走行が多数あった。また近隣住民より並走の指摘や苦情が複数届いていることから、指導を強化する必要がある。

進路指導部	・生徒一人一人が自らの在り方生き方や能力・適性等について主体的に考え、理解し、自らの力で将来を切り拓こうとする態度を育成する。	・自分の進路を主体的に選択・決定できる力を身につけさせるために、説明会や講演会を含むキャリア教育を進めるとともに、幅広い人間性や人権意識を育成する人権教育を計画的に実施する。	B	B	キャリア教育や人権教育、進路行事においては、各分掌・教科と連携を図りながら、外部の機関や講師を活用して進めることができた。生徒の実態に応じて内容や形態を変更するなど、より効果的な学習機会となるように努めた。
	・３年間を見通した進路指導計画を企画・立案し、体系的・組織的な進路指導を実現する。	・進路ＨＲ、進路講演会、模擬試験等の進路行事を効果的に実施できるよう、各分掌・教科と連携して企画・運営する。また、大学や企業とも連携し、様々な視点からアプローチすることで生徒の進路に対する意識の向上を図る。	B		各学年と連携しながら、その段階に応じた進路行事や進路ＬＨＲを計画・実施することができた。次年度の進路指導に向けて一部スタディサポートの実施形態の変更を進めており、タブレットの活用方法や、効果的な進路指導についても検討することができた。
		・各教職員の進路指導力向上に資するよう、入試動向や模擬試験、各種進路情報を共有する。	B		近年の入試動向や、新課程入試として初めて実施された大学入学共通テストの情報、本校生徒の学力状況等について教職員で情報共有を行うため、今年度より外部講師を招いた進路指導研修会の開催を予定しており、研修を通して今後の生徒の進路選択に関するサポートや学習指導について考える機会を提供できた。
図書部	・教科や他分掌との連携、図書館の刊行物の発行や図書委員会活動などにより、生徒が落ち着いて読書に親しむ環境をつくり、良いかたちで読書習慣を身につけられるよう指導を行う。	・教職員推薦図書の紹介冊子『菟道の泉』を年１回、図書館便り『あ　じろぎ』を月１回発行することで、読書の楽しさや「読む」という　行為の大切さを発信し、「言葉の力・思考力」の育成を図る。また、　教科や分掌と連携し、探究学習などに対しての授業協力を行い、積　極的な読書指導を進める。	B	B	・ひとり当たりの貸し出し冊数が１月末で今年度は 2.07 冊で減少している。読書啓発活動や教科・分掌・部活動との連携や探究活動での利用等で図書館を利用してもらえる工夫をしていきたい。 ・本を 20 冊以上貸出ししているベストリーダーが 38 名いる一方、未貸出が 33 名いて、二極化が顕著である。 ・図書委員会はブックフェア２回菟道祭で２つのイベントを行なった。SHR でイベントの告知を行なった。 ・液晶モニターを使って図書館を授業で有効に活用して頂きたい。視聴覚はよく利用されている。
	・ＩＣＴを用いた授業やその他の諸活動で、視聴覚教室や図書室の有効活用や、ＩＣＴ機器の有効利用を図る。	・図書委員会活動を活発に行い、「ライブラリーニュース」の発行や、　図書館でのブックフェアを通じて図書館を利用する機会を増やす。 ・エクセレントリーダー証やベストリーダー証を設けることで「多読　の勧め」を行い、生徒の読書習慣の啓発を行う。	B		
		・授業や行事の充実に向けて、教科や他分掌と連携して視聴覚機器の　有効利用を進める。	B		
保健部	・自他の生命を尊重するとともに、自己の健康管理に努め、心身共に健康で安全に生き抜くたくましい身体と豊かな心を養う。	・保健委員会活動等を通じて、身近な健康課題について考える機会を提供し、主体的に自己の健康管理を実践できる力を養う。また、講演会等を通して、性に関する問題や薬物乱用防止等の指導を行う。	B		・保健委員会で熱中症予防や感染症対策意識の向上に努めた。 ・保健教育講演会を予定通り実施することができた。

		・教育相談の充実を通して、安心安全な学校生活を送れるよう支援する。様々な課題を抱える生徒については、家庭や地域、関係機関、医療機関、スクールカウンセラーと連携しながら、発達段階に応じた、教育的、心理的な支援を行い、気軽に相談できる体制づくりに努める。	B	B	・学校生活への不安、家庭環境、発達特性から不適応を起こす生徒が多く、保健室で対応する生徒が増えている。SC と継続的に相談対応ができた。家庭環境に課題のある生徒については SSW の先生とも連携した。医療につなぎたくても、なかなか予約がとれず、SC も予約が取りにくい状況があったので、SC の時間増が望まれる。 ・地域支援センターうじの巡回相談を行った。今後も途切れることのない支援を続けていきたい。 ・美化委員会で校内清掃を行い、校内美化に努めている。ポスターを作成し、啓発を行った。
		・特別支援教育において理解を深めるとともに、家庭や地域、関係諸機関と連携を深め、生徒にとって適切な合理的配慮を行える体制を目指す。ユニバーサルデザインの視点に立った教育活動を学校全体で行えるよう情報交換を密に行う。	B		
	・環境に対する関心を高め、環境の美化、保全のために主体的に実践できる態度の育成を図る。	・美化委員会活動等を通じて、主体的に清掃活動に取り組む態度を養い、環境美化及び環境保全の啓発活動を行う。	B		
総務企画部	・中学校や地域社会に対して、学校への理解と信頼を深めるために広報活動全般の推進を図る。 ・ＩＣＴ教育の推進、支援を積極的に行う。特にＢＹＯＤ事業が円滑にすすむよう努める。	・学校説明会、部活動体験をはじめ、中学校訪問や塾の説明会、さらに UJI 学などの運営・調整を通して、中学生や保護者、地域の人たちが本校への理解を深められる取り組みをする。	B	B	・学校説明会Ⅰ・Ⅱでは高い満足度であったが、学校説明会Ⅱでは昨年よりも参加人数が減少したこともあり広報活動の実施時期や内容については中学校の事情を踏まえ、更なる検討が必要である。 ・ホームページや Classi 等の広報媒体は有効的に活用できている。 ・一人一台端末の対応やその他 ICT 関係の事項については関係分掌と調整の上、取り組むことができている。 ・菟道祭での模擬店の実施をはじめ、無理のない範囲で PTA 活動の実施に協力し、取り組み内容についても周知することができている。
		・学校説明会等の年間参加者が 1000 人を越える広報活動を行い、説明会参加者アンケートの満足度 95%以上を目指す。	B		
		・学校案内、ポスター、ホームページ（ＨＰ）、Classi 等の広報媒体の作成、管理、更新を行い、広報活動全般の推進を図る。	B		
		・ＰＴＡ諸活動を全会員に周知するとともに、実施方法を検討しながら活動が円滑に進むよう努める。	B		
		・各分掌と連携をとり、ＩＣＴ教育の計画、ＢＹＯＤ事業、提案、環境の整備等に努める。	B		
第１学年部	・基本的生活習慣の確立および集団生活を送る上での規範意識の育成を図る。	・日常生活において、挨拶、時間管理などを自発的に行えるような学年およびクラスの雰囲気を醸成する。	B	B	・学習と部活動に対して、多くの生徒が積極的に取り組めていた。 ・授業規律・校則遵守に対する意識は概ね良好であった。 ・日々の学習の充実および復習による定着度を高め、希望進路の実現につながる学力の定着を目指す。 ・文化祭など学校行事での活動を通して、自主的な行動や他者との協働を学び、大きく成長できている。
	・受動的でなく主体的に学習に取り組む姿勢を養成し、進路実現につなげる。	・授業を中心に予習・復習などの学習習慣を確立するよう促し、学習と部活動の両立を支援する。	B		
	・個の多様性を理解、尊重し、円滑な人間関係を構築する力を育む。	・HR 活動や学校行事等で他者と関わり、他者を理解、尊重する姿勢を養う。	B		

第２学年部	・自己理解を深化させるとともに、集団生活における自己の在り方を探究させる。	・高校生として望ましい規範意識や生活習慣を身に付けさせる取組を行う。 ・個に応じた指導を心掛け、種々の課題を抱える生徒に応じて適切に対応する。	B	B	・学年全体としては、規則正しく落ち着いた学校生活を送ることができた。 ・精神的不調等で遅刻や欠席の多い生徒には、家庭や保健部、外部機関とも連携して対応した。 ・進路ＨＲを通して、学習における計画・実行・振り返りを習慣化させる取組を行った。後半は自己の希望進路を明確にする取組を進めた。 ・研修旅行や菟道祭の活動の中で、自主・自律的な行動や他者との協働を学び、大きく成長した。
	・進路希望の実現に向け、基礎学力の定着と自ら進んで学びに向かう姿勢を育成する。	・授業を中心として HR 活動や講習とも連携した学習環境を整え、学習習慣や学力を定着させる。 ・他分掌や各教科と連携を図り、組織的・計画的に進路学習を進め、希望進路を明確化させる。	B		
	・協働的な学びを通して、広い視野を持ち自他を認め合う集団を育成する。	・研修旅行をはじめとする学校行事や特別活動などを通して、自己の価値観を広げ、責任感や他者と協働する力を養う。	A		
第３学年部	・集団生活を通して、互いを尊重し、多様化・複雑化する社会の中で責任ある行動をとることができる力を育成する。	・望ましい生活習慣を確立し、情報モラルや服装・挨拶、時間管理等の社会的マナーに関わる指導を充実させる。	B	A	・遅刻指導や身だしなみ等の個別指導を行い、規律ある学校生活の確立を目指した。 ・課題を抱える生徒に対して、担任や学年団だけでなく、他分掌と連携を取って迅速に対応した。 ・校外学習や文化祭等を通して、集団としての活動であることを見据えた行動を取ることができた。 ・放課後講習を実施したり、自習室の活用を促したりするなど、生徒一人ひとりの学習活動を充実させるよう努めた。 ・面談等を通して丁寧な進路指導を心がけ、生徒の希望進路の実現に向けて取り組んだ。
		・他分掌や家庭と連携し、課題を抱える生徒に対する指導体制を整えることで、自らの課題を克服できるようサポートする。	A		
		・クラス活動や学校行事を通して、互いを尊重し、協働的に学ぶ機会を充実させる。	A		
	・自己の可能性に気付き、目標に向けて最後まで主体的に学び、自らの進路を切り拓く力を育成する。	・進路指導部や各教科と連携し、希望の進路実現に向けた取組を充実させる。授業に積極的に参加する態度を養うとともに、自習室や講習を充実させ、自主的に学習に向かう学習環境を整える。	A		
		・面談等を通して個に応じた指導を心がけ、生徒一人ひとりが自己の適性や課題に気づき、課題解決に向け粘り強く取り組めるよう指導する。	B		

事務部	・予算計画に基づく効率的かつ効果的な予算執行	・本校の学校運営経営方針や経営目標を達成するために、教育内容を理解し、より効率的な予算執行を行うため各部・各教科へのヒアリングを十分行う。 ・計画的な予算執行の中にも、時機に応じた瞬時の対応が図れるよう努める。 ・本校の教育内容に沿う府の事業等を積極的に活用、推進し、特に短期経営目標であるタブレット端末やオンライン授業を活用した教育活動や「総合的な探究の時間」の活動内容のさらなる充実を目指し、推進していく。	B	B	・各分掌等と連携しながら、計画的かつ効率的な予算執行を行うことができた。今後も臨機応変に対応できるよう心がけたい。 ・施設・設備の不良箇所について、早期発見・早期修繕を行った。今後も早期対応を心がける。
	・安全な施設・設備の管理	・日常的に校内巡視を行い、不良箇所等の早期発見に努める。老朽化した箇所については計画的に修理し、学習環境の充実を進める。 ・工事や修繕の実施は、校内調整を十分に図り、生徒・教職員が安全に学校生活を送れるように計画・執行する。 ・施設・設備の不良に起因する事故を０件とする。	B		・文書の取扱いについて、　適正に行うことができた。今後も個人情報の取扱いも含め、適切に管理していきたい。 ・菟道祭や学校説明会等で受付として携わった。今後も積極的に学校行事等へと参画し、各自の業務に生かしたい。
	・効率的な文書事務の徹底	・文書の起案・審査・決裁・施行・廃棄等の取扱いを、文書取扱主任を中心に、事務部および各分掌等へも指導し徹底する。 ・個人情報の管理を適切に行う。	B		
	・学校経営に参画する事務職員の育成	・本校の魅力や特色について情報発信の方法や内容を工夫し、地域や中学生の理解と信頼を得るため、学校説明会等において、教職員と連携し積極的に参画し、生徒募集につなげる。 ・学校行事等へ積極的に参画し、学校全体の業務や事業について俯瞰し、教育的視点も持ちあわせて業務に活かせる事務職員を目指す。	B		

評価領域 （教科領域）	重　点　目　標	具　体　的　方　策	評　価 項目	評　価 総合	成果と課題
国語科	・新学習指導要領並びに大学入試改革に対応可能な、主体的・協働的で深い学びを意識した授業を行い、社会生活に必要な技能を育む。 ・言語感覚を磨き語彙を豊かにさせ、場や相手に応じて適切な言葉や文章を選択できるようにする。	・複数の資料を読み比べ、課題解決のために必要な情報を取捨選択できる技能を身につけさせるような授業、課題を設定する。 ・教授型の授業だけでなく、課題に対して主体的・協同的に解決する教育活動を行う。 ・小テストや課題を継続的に課すことで、学習習慣の確立と語彙力の養成を図る。	B B B	B	・教科書本文だけでなく、原作の提示やそれまでの経緯を書いた文章を取り扱い、比較しながら読み進めることができている。 ・課題に対してグループワーク等、教授型以外の授業も展開できている。 ・小テストに関してはほぼ毎週行えているが、学習習慣の確立及び定着はまだまだ及んでいない。
地歴公民科	・生徒の希望進路の実現に向けて、大学入学共通テストをはじめとする多様化した入試に対応できるよう、組織的に取り組む。 ・より質の高い授業を展開する中で、生徒の持つ次の資質を高めるために、組織的に取り組む。 ①基礎・基本的な学習内容 ②学習意欲の向上、自ら積極的に学ぶ姿勢 ③地理・歴史・公民、各分野への興味・関心 ④現代社会の諸問題についての関心を高め、その解決に向けて取り組む能力 ・新科目、観点別評価、BYOD など新たな動きに円滑に対応できるように教科全体で取り組む。	・小教科の担当者同士の打ち合わせや意見交換を密にし、計画的な指導を行う。また、教員間での専門分野や経験値の違いをうまく活用し、情報・ノウハウ・教材を共有していき、教科全体の財産を蓄積する。 ・特に、新科目、観点別評価、BYOD など新たな動きについては、校外での研修にも意欲的に参加し、ノウハウの習得に励むとともに、校内での実践に還元、情報共有を図る。 ・落ちつきある学習環境の確保・維持に努めるとともに、学年部をはじめとする他の分掌との連携を密にし、課題を抱える生徒の把握、組織的な対応などに努め、粘り強く指導していく。 ・定期考査以外にも、計画的な単元テストや小テストの実施や、適切な課題やレポートなどを課すことを通じて、基礎・基本的な学習内容の定着と自ら積極的に学ぶ姿勢の向上を図る。 ・大学入学共通テストをはじめとする多様化した入試に対応し、希望進路の実現に向けて生徒を支えていくために、模擬試験や過去問などを活用していく。校内外での研修や研究授業や授業公開を積極的に参加・活用する。 ・生徒の取り組み姿勢や成果に対して、適切なフィードバックを行うことで、生徒の学習意欲を向上させる。 ・本校に整備されている ICT を活用した実践を一層充実させ、生徒の地理・歴史・公民それぞれへの興味・関心・理解度を高めていくとともに、よりよい活用法を研究する。 ・本校特色化事業や伝統文化事業にも積極的に関わっていく中で、現代社会の諸問題についての生徒の関心を高め、その解決に向けて取り組む能力を高める。	B B B	B	・各教科の担当者で連携を取ることができている。定期的な小テスト、レポート課題を実施しており、生徒の学習習慣の確立につなげることができた。 ・多様化する入試に対して、授業だけでなく、講習や個別指導を通じて、生徒の希望進路の達成に向けて、粘り強い指導ができた。 ・新カリキュラム、新共通テストについて、担当者間でよく検討し、対策に取り組むことができた。教科内で新カリキュラムの３年間と新共通テストの総括及び分析を共有し、今後の指導の進め方を検討していきたい。 ・観点別評価については、教科全体で統一した様式を採用したが、大小さまざまなミスが見られたので、様式を再構築するとともに、来年度は教科内で研修会を開催し、適切な評価をつけられる体制を整えたい。 ・BYOD については、ロイロノート等も多くの教員が活用することができた。デジタル教材を活用した研究授業にも取り組んだ。

数学科	３年間を見通した学習指導を行い、希望進路の実現につながる学力を一人ひとりにつける。	・より質の高い授業を行うように努めるとともに、実力を養成するための十分な演習時間と質を確保する。	B	B	日々の授業で演習の量と質の確保に努めた。来年度以降もクラス全体で自らの学力を伸ばそうとする状況を目指していく。ICT の活用は積極的にできた。大学入学共通テストは新課程初年度を終え、今後も動向を注視しつつ対策を研究し、指導に生かしていく必要がある。
		・家庭学習の意識を高めるため、各時の課題を明らかにし、明確な目標を持って学習に取り組み自ら学力を伸ばす生徒を育てる。	B		
		・ICT を有効に活用する授業について研究する。	B		
		・大学入学共通テストに対応した問題の研究、新課程に対応した入試問題の研究を進める。	B		
理　科	自然科学に対する興味・関心・意欲を高め、知識を身につけさせ、科学的なものの見方・考え方を働かせる。	・授業においてＩＣＴ教材や演示実験等を効果的に活用する。また、アクティブラーニングの手法を取り入れ、「主体的・対話的で深い学び」を促進する。 ・実験・実習を積極的に実施し、レポートの作成を通して内容を深く考察させる。また高大連携事業等を通して、探究的に学ぶ姿勢を養う。	B	B	授業におけるＩＣＴの活用、小テスト等による内容の定着に向けた取り組みを実施できた。 理科実験室及び講義室の施設・設備（エアコン、プロジェクター等）が十分でないことが、実験・実習を実施する足かせになっていた。特にエアコンがないことで夏期の実施が困難になっていた。まずは設備を充実させることが、莵道高校ならではの探究的な学びを目指すスタートになると考えられる。
	進路選択に対応できる学力を育成する。	・授業の順序や内容を適切に組み立て、効果的な指導を行う。学習内容の定着のために問題演習や小テストを実施するとともに、思考力・判断力・表現力を身につけさせる機会をつくる。 ・小テスト等を適宜実施し、基本事項の定着を図る。 ・放課後や長期休暇中の講習等を通して、生徒個人の進路目標に応じた学習の在り方を明確にし、進路実現のために必要な学力を身につけさせる。	B		
保健体育科	・運動の楽しさや喜びを深く味わい、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともにそれらの技能を身につけさせる。	・運動実践や体育理論、保健学習を通じて、スポーツの歴史や文化、身体の構造、運動の効果を理解させる。 ・　可能な限り生徒の興味関心のある運動スポーツや題材を選択させ、意欲的に取り組むようにさせる。	B	B	・体育理論の授業を通し「スポーツの技能や技術」について学習させた。 ・各学年において、種目を選択させる場を設け、学習に取り組める体制をとった。 ・可能な限り種目を選択させたが、担当教員数等に限界があり、十分な選択幅とは言えないが、集団で活動する基盤を作ることができた。 ・保健の授業において、個人及びグループでの課題研究と発表を行った。 ・心肺蘇生法の実習を実施し、必要
	・生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向け思考判断する力を身につけさせる。	・自己や仲間の課題について、過程を踏まえて思考し判断したことを「発表」を通じ、他者に伝える力をつける。 ・選択制授業を通じて、自ら計画を立案し、集団で運動やスポーツに取り組むことができる基盤を作りあげる。	B		

	・個人及び社会生活における健康、安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けさせる。	・生徒が主体的に学ぶ場を作り、自他や社会の安全等に対し配慮できる力を身に付けさせる。 ・心肺蘇生法の実習を通し、万が一の対応に必要な技能を身に付けさせる。	B		な技能を身につけさせることができた。
芸術科	・基礎的・基本的な技術の定着を図り、意欲的に活動する姿勢を育成する。更に、定着した技術を基に独自に応用する能力を身に付けさせる。	・意欲や創造性を引き出せる指導法の研究と教材の精選をすすめ、生徒が主体的に取り組む姿勢と創造力・考える力を身につけさせる授業を行う。	B	B	・ＩＣＴの活用を積極的に行いつつ、指導法の研究や教材の精選のため研修や学会等に積極的に参加できた。それにより、生徒が自ら疑問を持ち探求する授業を実施した。 ・芸術祭に向けて、より良い発表・展示ができるよう指導の途中である。
	・それらの活動を通じて、自国の文化・芸術に誇りを持ち、他国の文化・芸術を尊重する人材を育てる。 ・豊かな創造力を基に、主体的に考え自ら問題提起し解決に向けて行動できる能力を育てる。	・日常の様々な場面で作品・演奏を発表させることにより、自己の作品・演奏に責任を持たせるとともに、相互鑑賞指導の充実を図る。 ・授業で学んだ事が社会とつながるものにする。	B		
英語科	適切な学習習慣と基礎学力の定着・向上を図り、希望進路に対応できる実践力の基盤を形成する。	・習得すべき学習事項を明確に具体的に理解することで、知識を整理しながら学習活動が行えるよう指導する。 ・効果的で適切な小テストや課題を設定する。 ・講習や模擬試験等、授業外の取り組みを有効に活用する。 ・ICT を効果的に用いた授業を工夫し、理解しやすい授業を展開する。	B	B	・ICT、デジタル教材を活用しながら、理解しやすく、かつ効率的な授業展開を行った。 ・夏期講習、放課後講習を通して、通常授業では取り組めない学習内容にも取り組み、理解を深めた。 ・３年生の１月講習では、必要な時期に個に応じた指導を行うことができた。 ・国公立大学二次指導において、個々の志望校に対して、個に応じた指導を行うことができた。 ・模擬試験を活用し、生徒が自らの学力や課題を把握し、目標設定及び具体的な取り組みへとつなげる指導を継続した。 ・複数学年に渡り AET を活用し、4 技能のバランスの取れた指導を行った。 ・実用英語技能検定の受検を促し、個別の二次指導等を行った。
	知識・技能の習得にとどまらず、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、思考力・判断力・表現力を養う。	・４技能を総合的に育成する言語活動をより一層行い、英語によるコミュニケーション活動への意欲を向上させる。 ・AET を積極的に活用し、実践的なスピーキングやライティング活動を活性化させる。	B		
	英語学習への関心を高め、自主的・主体的に取り組む姿勢を育むことで、生涯にわたり英語能力を向上させようとする意欲と意識を養う。	・英検などの外部検定も活用し、英語運用能力を測ることにより、自己の課題を認識し、目標に向けた学習プランを計画し、取り組むことができるよう指導する。	B		

家庭科	・少子高齢化、成年年齢の引下げ、防災や安全、持続可能で環境に配慮した生活等、社会の変化への対応を重視し、自らの生活課題の解決方法を探求し、問題を解決する力を育てる。 ・基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、学んだ事を活用できる力を身に付けさせる。	・体験的な学習を中心とした授業を行うとともに、ICT を積極的に活用し、効果的、意欲的に学ぶ環境作りをする。特に、子どもに対する理解、子どもと関わるコミュニケーション能力の育成を図るために、保育園実習、グループディスカッション等の学習を積極的に取り入れる。 ・体験学習ごとにレポート提出を課すことにより、学んだこと感じたことを自分の言葉で表現する力を養う。 ・外部講師による講演を通して、我々を取り巻く社会状況を把握し、自らの生活課題の解決方法を探求する能力を育てる。	B	B	・全員参加の保育園実習をクラスの半数ずつに分けて実施した。生徒は積極的に子どもたちと交流し、子どもに対する印象が大きく変化した。 ・社会人講師によるキャッシュレス社会に関わる講演会など、体験型の金融教育を実施した。 ・課題をロイロノートで提出させるなど少しずつ IT の活用をすすめている。
情報科	・ 課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを含めて，必要な情報を主体的 に収集・判断・表現・処理・創造し，受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力を養う ・情報活用の基礎となる情報手段の特性の理解と，情報を適切に扱ったり，自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法の理解をさせる。 ・基本的なアルゴリズムを理解させ、初歩的なプログラミングの知識と技術を身につける。	・主体的な態度で授業にのぞませ、他者との対話を重ねながら実習課題等に取り組ませる。 ・コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の育成を図るために、効果的なプレゼンテーションの手法を理解させる。 ・基本的なコンピュータリテラシー（タッチメソド・表計算・プレゼンテーションソフト等）を講義、実技を通して身につけさせる。 ・ＶＢＡをもとに、プログラミングの基礎を身につけさせる。	B	B	情報に関わる基礎的な知識及びプログラミングの手法について理解を深めさせた。 また他者との対話を重ねながら課題に取り組ませるなど、極力コミュニケーション能力の育成を重視した授業になるよう工夫をした。 さらに主体的に諸課題に取り組める力の育成が課題である。

学校関係者評価委員会による評価	・落ち着いた学習環境を維持し、生徒それぞれが学習や部活動などやりたいことに挑戦できている。おおむね「菟道高校に入学してよかった」という思いを生徒は持っている。 ・質の高い授業を維持し、生徒も真面目に学習に取り組んでいる。社会の変化を踏まえ、探究活動や行事への取組を通して、自ら課題を発見し、解決に向けて主体的に行動できる生徒を育ててほしい。 ・生成ＡＩが学習活動に与える影響は大きい。それを含め、オンライン上の様々なツールとの付き合い方を、教職員も生徒も学ぶ必要がある。 ・施設設備の老朽化には工夫して対応してもらいたい。
次年度に向けた改善の方向性	・次年度以降も質の高い授業を実践することはもちろん、探究的活動の要として、「総合的な探究の時間」をより充実させる。 ・部活動をはじめ特別活動の充実を図りながら、生徒が主体的に取り組む姿勢を重視し、挑戦できる環境を整える。 ・情報リテラシーに関わる教育を進めると共に、生成ＡＩ等を教員と生徒が学習活動の中で適切に活用する方法を探る。 ・社会の変化に応じて、学校に求められる役割を整理し、校則やその指導の在り方を検討する。 ・校内の施設設備について、可能な範囲で更新をして学習環境を整える。